



気 愛

～支え合い 認め合い 高め合い～

文責 桃坂 靖

第52回卒業証書授与式 23名が巣立っていきました

3月14日(木)に第52回卒業証書授与式を、多数のご来賓の皆様、並びに3年生の保護者の皆様のご臨席のもと、執り行うことができました。式では、呼名の返事、送辞や答辞、式歌「旅立ちの日に」など一つ一つに生徒の想いが込められ、感動ある卒業式となりました。

学び舎を巣立っていった23名には、時代の荒波に吞まれることなく、自分の夢、志を叶えるために、「自己更新(アップデート)」を行いながら、一歩一歩、歩んでいってくれることと思います。

一人ひとりに卒業証書を授与した後に、私から式辞として次のような言葉を贈りました。

皆さんがこれから歩む人生は、予測困難な時代であり、AIとの共存時代でもあります。2045年にシンギュラリティ(人工知能が人間の知能を超える転換点)が到来し、テクノロジーの進化は無限大になるといわれています。また、人工知能の進化は、人類の予測・予想をはるかに超えたものになる可能性があるとも言われています。その中で、“人間ならでは”の価値を創り出していかなければなりません。だからこそ、今、社会は「言われたことを誠実に、まじめに行う人材」に加え「これから何か新しいものを生み出せる人材」を求めています。つまり、皆さん、一人ひとりが持っている個性・能力が重視される時代とも言えます。

佐世保市に本社を置く、ジャパネットたかたの前社長高田明(たかた あきら)さんは次のように言っています。

「人間の生き方っていうのはすごく自己更新の世界だと思っています。自分を常に更新し続ける。これは人との比較じゃなく、自分の中で課題を見つけ、その課題に向かって頑張るプロセスが大事です。」

人生は山あり、谷ありの連続です。社会も刻々と変化しています。こんな時代だからこそ、時代の変化に合わせて、自分自身をアップデートしながら、自分の道をしっかりと歩み続けていかなければなりません。自分という人間を磨き、成長させていかなければなりません。

その先に、夢の実現が待っています。

高田社長が東京にこだわらず、通販の常識を打ち破り、小さなカメラ店を全国的に有名な企業にしたことこそがその証拠です。

夢の実現までには、多くの困難と出会うでしょ

う。そんなときに最も大切なことは、自分を見失しなわないことです。自分を見つめ、自分と話し、そして、自分を信じ、愛し続けることです。

自分で自分を愛せる人間になるために、私から最後に3つのことを伝えます。

一つ目は、「何事も自分から取り組んでください。」好きなことも嫌いなことも誰より先に取り組むことで、大きな達成感が得られ、それが確固たる自信へと繋がります。

二つ目は「常に自分と勝負をしてください。」未来のために、自分をいかに成長、変化させるかを考え、実践すること、挑戦することは、新しい自分発見に繋がります。

三つは「優しさのおすそ分けをしてください。」人に優しくする、人のために力を尽くすことで、自分自身の人間性を高められると共に他人からも愛される存在になります。

皆さんは、この一年間、学級目標「現状打破」を掲げ、実践してきたのですから、大丈夫です。きっとさらに大きな人間に成長します。私には、皆さんの輝かしい未来が見えます。



皆さんの明日からの前途に幸多かれと祈りつつ、悔いのない確かな一歩を踏み出してくれることを願っています。

祝辞では、PTA 会長様から、「卒業生に誇り高く生きていただきたい」とはなむけの言葉をいただきました。

これからは、家庭や社会において、今までのような手厚い保護や甘えは許されません。自らの手で道を切り開き、自分の言動に責任を持って、進んでいかなければなりません。

皆さんを取り巻く環境は、日々複雑さを増し、社会の目もまた一段と厳しくなることでしょう。しかし、物事の善悪をしっかりと見極める目を養い、決して周りに惑わされることなく、しっかりとわが道を進んでいただきたいと思います。

皆さんは、これからの長い人生の入口に立っています。人生にはいろいろなことがあります。楽しいことも苦しいこともあるでしょう。どのような時も、この三年間友情を深めた仲間やお世話になった先生方、そして、共に学んだこの校舎を忘れることなく、それを礎として、強く生き抜いていただきたいと思います。

祝辞を2年生の　　さんが述べ、先輩たちとの思い出や感謝の気持ちを伝えるとともに、「先輩たちからのたすきをしっかりと受け取りました。先輩たちが誇れるように鹿町中学校を守り続けます。」と力強く約束しました。



答辞を二年間生徒会長を務めた　　さんが、中学校生活三年間を振り返りながら、先生方、家族、後輩、地域の方々、そして仲間感謝の気持ちを伝えました。

答辞

桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日の良き日に、私たちは卒業の日を迎えました。本日は、このような素晴らしい卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、保護者の皆様、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

思い返すとこの学校で過ごした三年間は、あっという間でした。私の心の中には数えきれないほどのたくさんの思い出が昨日のこのように蘇ってきます。

三年前の春、おろしたての制服を着て臨んだ入学式。中学校生活への不安や希望を胸にいっぱいに詰め込み、緊張した足取りで、校門をくぐりました。何もかもが初めてだった一年生。困っているときには、よく先輩方に助けていただいたことを思い出します。

入学して間もなく、歓迎遠足がありました。長串山公園までの道のりは、小学校が違ったクラスメイトや上級生とのコミュニケーションを楽しむことができました。歩きながらバック持ちジャンケンをしていて怒られたことも、なつかしい思い出です。

五月の体育祭では、繰り返し行われる練習がきつく、やりたくないと思度思いました。しかし、本番では、練習の成果を十分に発揮することができました。中学校で初めて体験した大きな行事、体育祭。私たちにあって素晴らしい、よい思い出になりました。

中学生になった一年間は瞬く間に過ぎ、私たちは二年生になりました。後輩ができる自覚もないまま迎えた新学期。一年生との接し方に嬉しさや戸惑いを感じた二度目の春でした。

そして迎えた三度目の春。最上級生となった私たちは、最後の体育祭を迎えました。一、二年生の頃とは違い、自分たちが支え、動かしていく番となり、団結することの難しさや大切さを学びました。それは、音楽祭においても生かされました。初めはバラバラだった声が、一生懸命に練習を重ねたことで少しずつまとまり、本番ではたくさんの人を感動させることができました。これらの経験が私たちの絆を更に深いものにしてくれました。

修学旅行では、熊本の歴史や災害の怖さなどを学ぶとともに、最終日の遊園地や夜のレクリエーションなど存分に楽しみました。一生忘れられない宝物の一つとなりました。

大きな行事が一つずつ終わっていくと同時に、私たちはそれぞれの進路を選択しなければならぬ時期を迎えました。自分の将来に深く関わってくることや初めての受験ということで、大きなプレッシャーを感じていました。

思うように進まない受験勉強、なかなか上がらない点数、勉強が楽しくみんながイライラしている時期もありました。そんなとき、私たちは、お互いに助け合い、団結して前に進むことができました。それは、自分たちの努力だけでなく、多くの人の支えや応援があったからです。

いつも私たちのそばで寄り添ってくださった先生方。一緒になって悩み、時には厳しく叱り、正しい道へと導いてくださいました。本当にありがとうございました。

登下校時や地域行事などで、私たちの安全を見守り、温かい言葉をかけてくださった地域の皆様、そのおかげで安心して学校生活を送ることができました。ありがとうございました。

そして、一番近くで支えてくれた家族。迷い悩んでいた時に、何度も背中を押されました。時には冷たい態度をとってしまうこともありました。そんな時でも真剣に向き合ってくれました。私たちが勉強やスポーツに頑張れたのも家族の支えのおかげです。この場を借りて感謝を伝えます。私たちをここまで育ててくれてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

どんなときも私たちのことを信じてついてきてくれた在校生の皆さん。今日まで本当にありがとうございました。次は皆さんが、この学校をリードしていく番です。中学校生活は、あっという間に過ぎていきます。毎日大切に生きて過ごしてください。

最後に三年生のみんな。この三年間、いろんなことがありましたね。楽しいこと、つらいこと、普段の何気ない会話やみんなできりきった体育祭や音楽祭。みんなと一緒に経験できてよかったと心からそう思います。本当にありがとう。

これから私たちは、別々の道を進んでいきます。行く手には、大きな壁にぶつかったり、先行



が見えなくなったりすることがあると思います。そんな時こそ、これまで一緒に前を向いて歩いてきた仲間がいること、ここで学び、経験

してきたことを思い出します。決して諦めず、一歩一歩、力強く歩み続けることを誓い、答辞いたします。

令和六年三月十四日

卒業生代表